

# 日本医史学雑誌 第五十一卷第一号 目次

原 著

ラウレンティウスの解剖学書	澤井 直・坂井建雄	三
岡田篁所と清末の日中医学交流史料	梁 永宣・真柳 誠	三五
葦原檢校の足跡	大浦 宏勝	五
近世地方藩医における文化活動と医師の教養形成		

追 悼

——土浦藩医辻元順を例として	滝澤 利行	八三
赤堀昭先生のご逝去を悼む	鈴木 五郎	一〇四

資 料

フランス人医師マイエのコレラ発生報告について

——生野・姫路地域における事例	須長 泰一	一〇七
-----------------	-------	-----

池田文書の研究 (二十六)	池田文書研究会	一一
---------------	---------	----

記 事

例会抄録

石原保秀・東亜医学協会旧蔵古医書 (日漢研本) の概要	小曾戸洋・天野陽介・野澤隆幸・小林健二	一三〇
-----------------------------	---------------------	-----

野口英世の初期の事績について	森山 徳長	一三三
----------------	-------	-----

史的に見る薬学成立の経過と課題——日本薬史学会創立五十周年に当たって	川瀬 清	一三五
------------------------------------	------	-----

齋藤茂吉における性	岡田 靖雄	一三五
-----------	-------	-----

「山崎 佐の錦小路文章」の頌末	檀田 義彦	一三七
-----------------	-------	-----

書籍紹介

前田久美江編著『現代医療の原点を探る——百年前の雑誌「医談」から』	三輪 卓爾	一三六
-----------------------------------	-------	-----

K・マウラーほか『アルツハイマー その生涯とアルツハイマー病発見の軌跡』……………三〇

荒井保男『ドクトル・シモンズ——横浜医学の源流を求めて』……………三三

小田泰子『医師へボンとその時代』……………三三

文庫めぐり……………三三

ゲッチンゲン医学古典文庫……………三三

下関市立長府図書館(下関文書館)……………三三

《表紙絵解説》

江戸のもぐさ屋—団十郎艾—

もぐさには、予め燃って粒に切った切艾(きりもぐさ)と、加工していない散艾(ちらしもぐさ)がある。江戸時代、切艾は団十郎艾が有名ブランドだった。菊岡沾涼の『近代世事談』(1734刊)にこうある。「団十郎艾、元禄のはじめ、神田鍛冶町箱根屋庄兵衛といふ者、箱根の湯泉晒と称して切艾を製す。看板あるひは艾の印に三ツ角の紋を付る。これ市川団十郎という芝居役者の紋なり。此切艾の製よろしとて江戸中に流布す。是を倣ひ所々に切艾の製あり。庄兵衛が印を模して、おのおの三ツ角の紋を付て、三升屋何某、市川屋何某などゝ名を付てこれを売るなり。団十郎がはじめたるにあらず」、と。三ツ角は升目を三重に囲った紋で、三升紋ともいう。江戸では笹屋と三升屋が切艾で繁盛していた。笹屋はもぐさ売り姿の団十郎人形を店頭飾り、江戸名物だったという。笹屋が安永年間に廃絶した後は、三升屋がやはり団十郎人形を店頭飾って有名だった。表紙絵は『此花』(1777刊)に載る図で、店先に座るのがもぐさ売り姿の団十郎人形、暖簾に「御江戸/とをりはたご(通旅籠)町/本三升屋/平右衛門/製」、掛看板に「くんさい(薫斎か)薬きう(灸)、箱看板に「大でんま(伝馬)丁(町)能(の)三丁目/とをりはたご町/本三升屋平右衛門」「回陽堂/正製御薬切艾元祖/永持道意製」とあり、三升中に艾の字をデザインした紋が瓦と箱看板に見える。図は松宮三郎『江戸の看板』(1959、東峰書院)より。  
(真柳 誠)

小曾戸 洋……………三三

深瀬 泰旦……………三三

岡田 靖雄……………三〇

大滝 紀雄……………三三

荒井 保男……………三三